

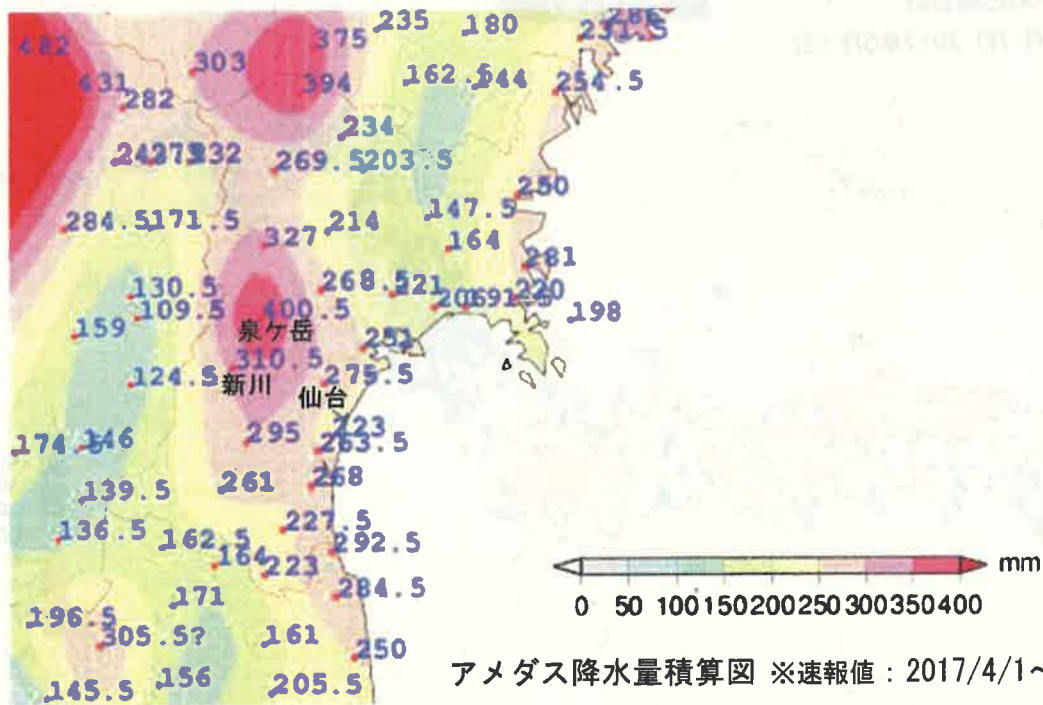
東北地方の長期予報について

仙台管区气象台

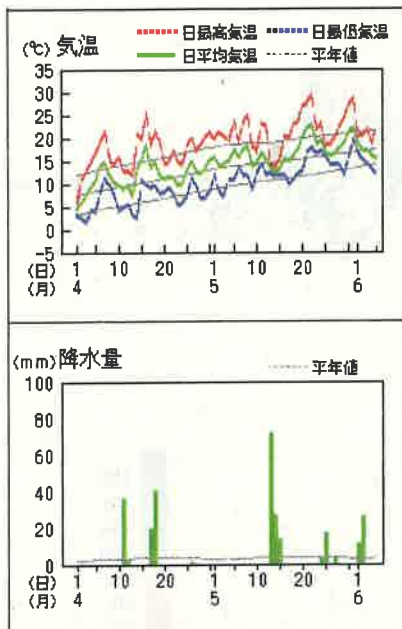
2017年4月から5月までの天候のまとめ（仙台管区气象台）

<宮城県の天候の特徴>

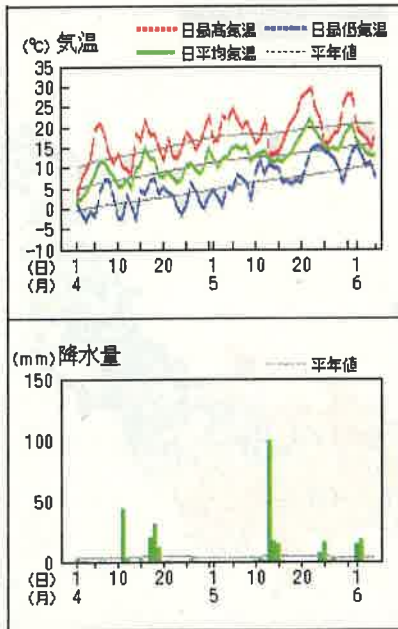
- ・ 4月は、日本付近を高気圧と低気圧が交互に通過し天気は数日の周期で変わった。18日から19日にかけては低気圧が発達しながら北日本を通過した影響で大雨となった所があった。一方、下旬は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。月降水量は平年並みだった。
- ・ 5月は、低気圧と高気圧が交互に通過したが、低気圧は本州の北と南を通ることが多く、影響は小さかった。月降水量は多いから平年並みだった。



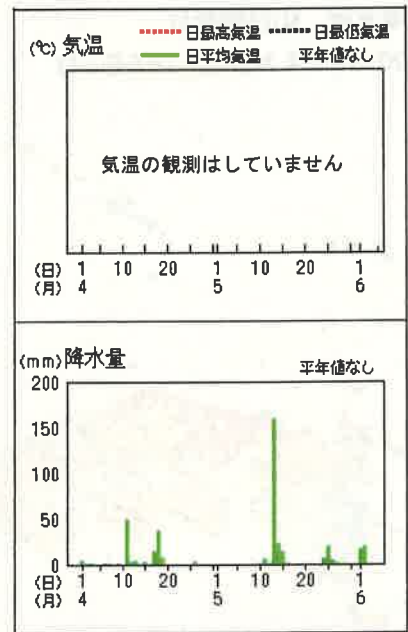
仙台



新川

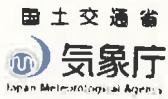


泉ヶ岳



アメダス気象経過グラフ（気温・日降水量）※速報値：2017/4/1～6/5

2017/6/5 までの 60 日間及び 30 日間合計降水量の平年比 (気象庁HP「天候の状況」ページより)



キーワードを入力し検索ボタンを押下ください。

- 本文へ
- ENGLISH
- ご意見・ご感想
- サイトマップ

ホーム

防災情報

各種データ資料

知能・解説

気象庁について

案内・申請

ホーム > 各種データ資料 > 最新の気象データ > 天候の状況

天候の状況

低温・少雨・日照不足などの状況を 全国各地の気温・降水量・日照時間の5日以上平均(合計)値やその平年差・平年比で見ることができます。

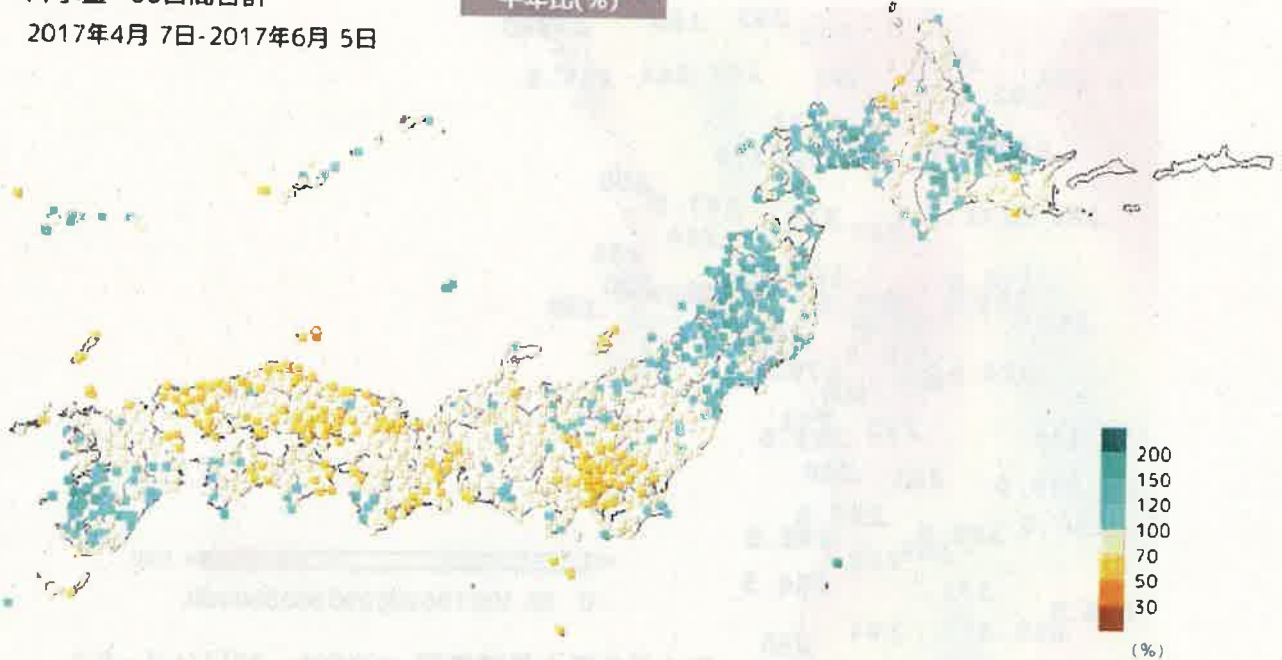
気温	昨日までの	5日平均	10日平均	20日平均	30日平均	60日平均	90日平均
降水量	昨日までの	5日合計	10日合計	20日合計	30日合計	60日合計	90日合計
日照時間	昨日までの	5日合計	10日合計	20日合計	30日合計	60日合計	90日合計

1~4週平均(合計)値
(気象台、測候所、特別地域気象観測所からのデータによる)

降水量 60日間合計

2017年4月 7日-2017年6月 5日

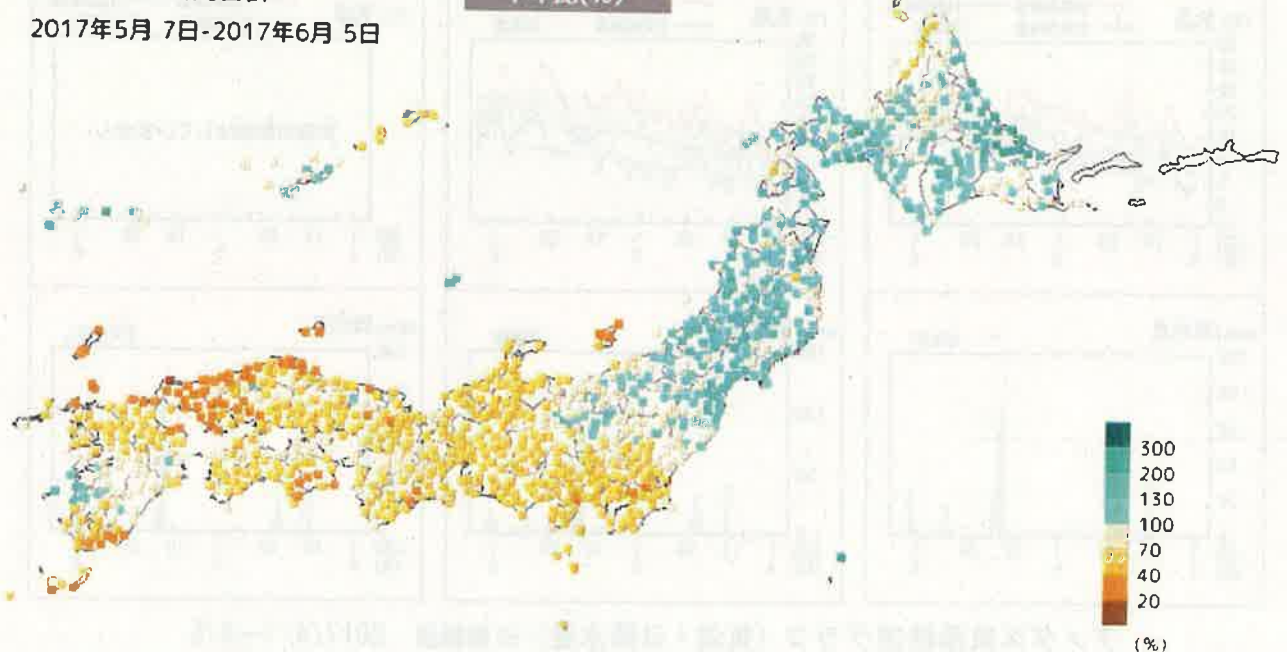
平年比(%)



降水量 30日間合計

2017年5月 7日-2017年6月 5日

平年比(%)



向こう1か月の天候の見通し 東北地方（6月3日～7月2日）

仙台管区气象台

予報のポイント

- 気圧の谷や前線の影響を受けやすく、向こう1か月の降水量は平年並が多く、向こう1か月の日照時間は平年並が少ない見込みです。
- 向こう1か月の気温はほぼ平年並でしょう。

1か月の平均気温・降水量・日照時間

		平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
東北	日本海側	低30 並40 高30% ほぼ平年並の見込み	少20 並40 多40% 平年並が多い見込み	少40 並40 多20% 平年並が少ない見込み
	太平洋側	低30 並30 高40% ほぼ平年並の見込み	少20 並40 多40% 平年並が多い見込み	少40 並40 多20% 平年並が少ない見込み

数字は予想される出現確率です

週別の天候

(1週目) 6/3～9	(2週目) 6/10～16	(3～4週目) 6/17～30
低気圧や気圧の谷の影響により曇りで雨の降る日が多いですが、期間の中頃は高気圧に覆われて晴れるでしょう。	天気は数日の周期で変わりますが、気圧の谷の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報 (<http://www.jma.go.jp/jp/week/>) を参照してください。

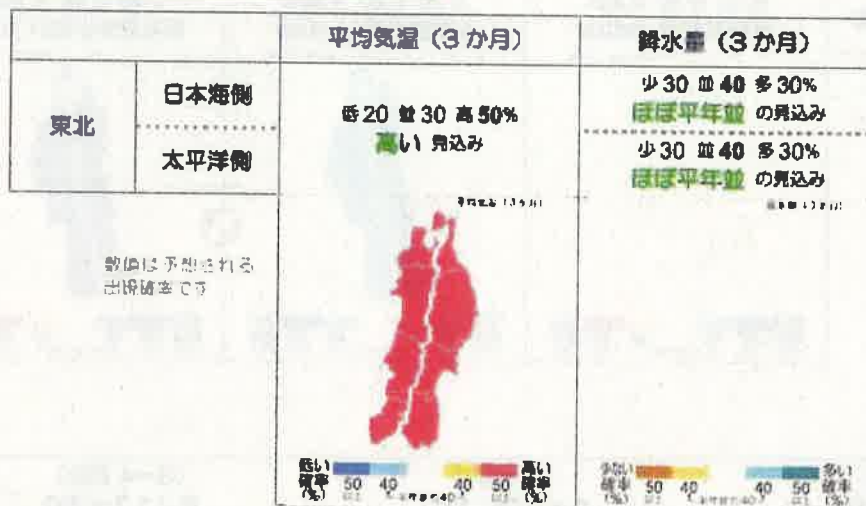
季節予報は、予報の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、末尾の「参考データ（平年並の範囲）」をご覧ください。
確率をその大きさに応じ言葉で解説していません。詳しくは末尾の「参考データ（確率予報の解説）」をご覧ください。

向こう3か月の天候の見通し 東北地方 6月～8月

予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすく、向こう3か月の気温は高いでしょう。
- 向こう3か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みです。

3か月の平均気温・降水量



月別の天候

6月	7月	8月
<p>期間の前半は、高気圧と低気圧が交互に通り天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、前線の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。</p>	<p>前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。</p>	<p>高気圧に覆われやすく、東北日本海側では平年と同様に晴れの日が多く、東北太平洋側では天気は数日の周期で変わるでしょう。</p>

季節予報は、予報の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、末尾の「参考データ（平年並の範囲）」をご覧ください。
確率をその大きさに応じ言葉で解説しています。詳しくは末尾の「参考データ（確率予報の解説）」をご覧ください。

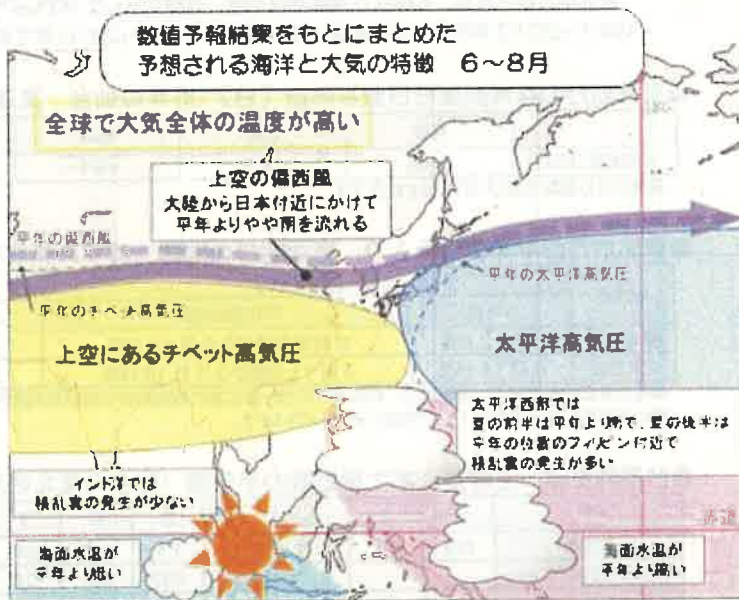
月別の平均気温・降水量

	平均気温 6月	平均気温 7月	平均気温 8月
東北地方	低20 高40 平40% 平年並か高い見込み	低20 高40 平40% 平年並か高い見込み	低20 高30 平50% 高い見込み

		降水量 6月	降水量 7月	降水量 8月
東北	日本海側	少40 多30 平30% ほぼ平年並の見込み	少30 多30 平40% ほぼ平年並の見込み	少40 多30 平30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少40 多30 平30% ほぼ平年並の見込み	少30 多30 平40% ほぼ平年並の見込み	少40 多30 平30% ほぼ平年並の見込み

予想される海洋と大気の特徴

- 全球で大気全体の温度が高いでしょう。
- 熱帯の海面水温は、太平洋西部ではニューギニア島の東で顕著に高く、インド洋では東部を中心に低い見込みです。このため、太平洋西部では夏の前半は平年より雨で、夏の後半は平年の位置のフィリピン付近で積乱雲の発生が多く、インド洋では積乱雲の発生が少ないでしょう。
- この影響で、梅雨の時期の上空の偏西風は大陸から日本付近にかけて、平年より南を流れる見込みです。
- 太平洋高気圧は、梅雨前線の南で西への張り出しが強く、盛夏期には本州付近に張り出しやすい見込みです。梅雨の時期は、西日本太平洋側を中心に湿った空気が流れ込みやすいでしょう。



最近 10 年間の夏の特徴

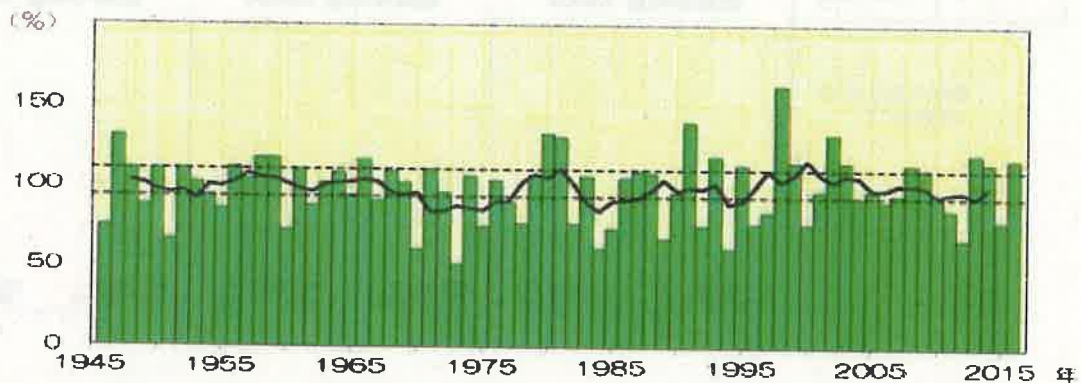
年	夏の平均気温 平年差℃ (階級)	夏の天候の特徴
2007	0.4(+)	気温は高い。降水量は平年並。日照時間は平年並。
2008	-0.2(0)	気温は平年並。降水量は多い。日照時間は少ない。平成20年8月末豪雨。
2009	-0.3(0)	気温は平年並。降水量は多い。日照時間は少ない。
2010	2.1(+)	気温はかなり高い。降水量は平年並。日照時間は多い。
2011	1.1(+)	気温は高い。降水量は少ない。日照時間は平年並。平成23年新潟・福島豪雨。
2012	0.8(+)	気温は高い。降水量はかなり少ない。日照時間はかなり多い。
2013	0.8(+)	気温は高い。降水量は多い。日照時間は平年並。
2014	1.0(+)	気温は高い。降水量は多い。日照時間は平年並。平成26年8月豪雨。
2015	0.8(+)	気温は高い。降水量は少ない。日照時間は平年並。
2016	0.8(+)	気温は高い。降水量は多い。日照時間は平年並。

階級 --: かなり低い -: 低い 0: 平年並 +: 高い ++: かなり高い

●夏の気温と降水量の経年変化

東北地方の夏の平均気温は、1970年代後半以降、年々の変動が大きくなっていますが、最近10年間は平年並か平年より高い年が続いており、2016年も平年より高くなりました。

東北地方の夏の降水量は、1990年代後半から平年並か多雨の年が多くなっており、2016年も多雨となりました。



東北地方の夏(6~8月)の降水量平年比の推移

棒は降水量平年比、太線は5年移動平均値、点線で示した93%より多く110%以下が平年並の範囲です。平年値は1981~2010年の30年平均値、統計期間は1946~2016年です。

●東北地方の年間真夏日日数(日)(昨年の仙台:真夏日計26日、猛暑日(35℃以上)計1日)

	青森	秋田	盛岡	仙台	山形	福島
年間真夏日日数	12.5	18.3	19.1	17.9	37.1	42.2

真夏日は日最高気温が30℃以上の日です。

●東北地方の平年の梅雨入り、梅雨明けの時期(昨年の東南北部:梅雨入り6/13頃、梅雨明け7/29頃)

地域名	梅雨入り		梅雨明け	
	平年値	平年値の範囲	平年値	平年値の範囲
東北南部	6月12日頃	6月9日頃から6月14日頃	7月25日頃	7月22日頃から7月27日頃
東南北部	6月14日頃	6月11日頃から6月16日頃	7月28日頃	7月23日頃から7月31日頃

梅雨は季節現象であり、梅雨入り、梅雨明けには一般に数日程の移り変わりの期間があります。梅雨入り、梅雨明けの日付は移り変わりの期間のおおむね中日用いて、0日頃と表記しています。

●台風発生数、上陸数、本土接近数の平年値(昨年の東北地方:8月に4個の台風が接近)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
上陸数					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
本土接近数				0.0	0.1	0.4	1.0	1.7	1.7	0.7	0.0		5.5

台風の中心が本州、北海道、九州、四国のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を「本土に接近した台風」としています